

第21回 12月5日（木）13:00～14:30

アイヌを知り自分を知る 文化から社会まで



北原モコットウナシ氏

北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授

会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

東京生まれ、埼玉県育ち。大学進学を機に北海道へ転居。2005年から（財）アイヌ民族博物館学芸課、2010年から北海道大学に勤務。2021年に開設された民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）の開設を支援、2022年に設置された北海道大学アイヌ共生推進本部の兼務教員を務める。自身のルーツである樺太西海岸のアイヌが形成してきた宗教、神話、音楽、工芸などを学ぶ。近年は、これらをジェンダーの視点で考察するなど、様々なマイノリティ研究との接点を模索し、差別の構造や解消についても研究・発信をしている。

<担当スタッフより>

アイヌ民族は北海道を中心に本州北部、サハリン南部、千島列島、カムチャツカ半島南端と広く居住し、とりわけ北海道にその多数が集住してきた先住民族です。アイヌ民族はアイヌ語や口頭で昔話や神話を伝える口承文芸、伝統的な信仰儀礼や生活様式など独自の文化を形成させてきました。しかし、アイヌを取り巻く差別は、アイヌの言語や生活基盤を奪い、存在を否定してきました。その結果、アイヌ自身が自らのルーツを切り離さざるを得ない状況が生まれ、歴史や文化、身内との繋がりを失うことになりました。受講生の皆さんには、アイヌ文化やアイヌの人々に対する差別を知ること、この社会で起きていることと自分が無関係ではないと気づき、社会における自分の立ち位置や社会の仕組みについて改めて考えるきっかけにしてもらえたらと思います。